

Q1 在宅医療を行う上で課題と感じていること

在宅医療を受ける側(患者・家族)			
A 介護力		17	
うち、	1 老々介護・認認介護	4	・服薬管理
	2 家族への負担	5	・特にターミナル期の場合の負担が大きい
	3 放任	3	・居住環境の管理が必要
	4 在宅医療への理解不足	5	・医師以外に看護師、ヘルパー、ケアマネなどが関与することへの理解不足
	5 その他		
B 独居		9	
うち、	1 後見人		
	2 急変時等の対応		
	3 ヘルパー等の介入不足		
	4 事務手続き		
	5 見守り	1	
	6 医療以外の関与の必要性	3	・生活環境を整えることが必要 ・服薬管理
	7 その他	2	・認知症患者の服薬管理 ・複数人での対応が必要となり費用がかさむ
C 経済的問題		1	・外来受診より費用がかかる
D その他		1	・医療より介護的側面が強い

Q1 在宅医療を行う上で課題と感じていること

在宅医療を提供する側			
E	24時間／緊急時対応		9
	うち、		
	1 一人医師		
	2 夜間・休日		1
	3 外来診療とのかけもち		5
	4 年齢・体力		3
			・眼科は特に外来患者数が多い
F	参入への壁		3
	うち、		
	1 初期費用		
	2 器具／消耗品等の購入		
	3 診療報酬		3
			・請求方法が煩雑で分かりづらい ・診診連携が難しい
G	提供する医療		4
	うち、		
	1 患者数の増加		
	2 患者ニーズへの対応・高まり		1
	3 治療内容・検査の限界		3
H	診療科間の連携		4
	うち、		
	1 機能強化型		
	2 他科		2
	3 リハ		
	4 情報共有		2
			・ICTによるリアルタイムの情報共有
I	入院医療機関との連携		13
	うち、		
	1 在宅移行		
	2 急変時・病状変化時の受入れ		9
			・認知症の受入れ ・精神の身体合併症の受入れ
	3 レスパイト入院		1
	4 退院時の連携		3
	5 看取り		
	6 その他		

Q1 在宅医療を行う上で課題と感じていること

在宅医療を提供する側(続き)		
J 介護事業者との連携		
うち、	1 訪問看護ST	1 ・訪問看護ステーションが連携している医療機関にかかりつけを変えられてしまう
	2 ケアマネ	3 ・ケアマネが連携している医療機関にかかりつけを変えられてしまう ・在宅療養を続けられるにも関わらず、施設に入れてしまうケースがある
	3 その他	
K その他		4 ・小児のトランデーションケースをサポートする医療機関が少ない ・看取りまで行くと労力を要する ・人員不足
制度的な問題		
L 施設等の不足		
M 駐禁		
N その他		
その他		

患者の受入れ		
A 受入れを望む患者像・状態		
1 急変時	15	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に受け入れて欲しい ・各病院が数床でよいので、在宅患者の急変時受入用の病床を確保して欲しい ・基幹病院が救急体制を取れない場合、救急体制を取れる病院と連携を作っておいて欲しい
2 独居		
3 複数疾患を抱えている患者		
4 認知症	2	・回復期／慢性期／レスパイト入院時
5 精神疾患	1	・身体合併症の受入れ
6 短期入院	1	・短期入院が可能になれば、重症化させずに軽快できる
7 検査入院	1	・診断を行い、治療方針を在宅医に伝えて欲しい
8 レスパイト	2	
9 状態悪化等で在宅医療が継続困難な場合(長期療養)	2	・透析患者の場合、施設での受入れが困難
10 看取り		
11 感染症		
B 受入れ手続き		
C 入院受入れ・医療機関の情報		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者の返事が欲しい ・紹介した科から転科した場合、転科先からの連絡がない場合がある
在宅医と病院の連携		
A 在宅移行支援	7	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な退院支援を望む ・開業医ともっと連携して欲しい ・積極的に退院カンファレンスに呼んでほしい ・退院カンファレンスの時は病棟主治医にも参加して欲しい ・訪問看護ステーションや家族から訪問依頼を受け訪問してみると、医療度が重い場合がある。退院時にもっと連携することはできないか。 ・在宅療養を希望する患者が療養型病院へ転院になるケースがある。
B 地域連携の推進		・逆紹介にあたっては、前もって薬剤の量を調整して欲しい
C 逆紹介の希望		
在宅医療への理解		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病の完全なコントロールよりも、在宅治療継続可能性を考えて欲しい ・入退院の適応について、在宅患者の場合は介護的側面も少なからずあるということを理解して欲しい
その他入院医療に求めること		
	1	・回復期機能、慢性期機能の病院が非常に少ないため、在宅医療にしわ寄せがきている

Q3 行政(区市町村・都)に対して望むこと

在宅患者の療養生活を支える関係者への支援・働きかけ		
A 医療と介護の連携	1	・医療と介護をしっかり分けるべき
B 24時間安心して療養できる体制の構築		
C 人材の確保・育成	1	・福祉の人員が不足している
D その他		
患者・家族に対する支援・働きかけ		
A 高齢者(独居や認知症など)へのサポート	2	・早期支援体制の確立 ・介護者がいない患者の場合は行政が決定権を持って対応して欲しい。
B 経済的負担に対する支援		
C 普及啓発		
1 制度・サービス	1	・利用可能な社会資源について説明して欲しい
2 在宅医療について	2	・子供世代が将来親をどうやって支えて行く必要があるのか理解不足
3 かかりつけ医		
D 小児在宅(のコーディネーター)	1	・行政にコーディネート役を担って欲しい
E 相談窓口	3	・医療機関からも患者からもわかりやすくしてもらいたい ・地域包括支援センターの対応格差が大きい
行政自身に望むこと		
A 適切な介護認定	2	・家族の状況についても考慮して欲しい
B 高齢者施設の確保	3	・特養の待機者が多すぎる
C 在宅医療への移行を適切に推進	2	・診療所のみで在宅医療を進めることは困難 ・家で最期を迎えることだけがベストだと思えないで欲しい
D その他	1	・地域住民の医療ニーズ把握
その他	1	・診療報酬を手厚くして欲しい